

城黄梓麵 長百歩法之間の内仕池
長延沙地地るる子 内法臣石町守屋

けいせい
けいせい
けいせい
けいせい

人々の生活、治水、そして一揆まで…

宝暦元年十月
清の戸書書法図
水谷祖廣の塚
山本又六塚 由見分
南無真経市代
三國文内板市立舎

春季企画展

江戸時代の 国分村

柏原市立歴史資料館

大阪府柏原市高井田 1598-1
電話 072-976-3430

入館無料
月曜休館 (祝日は開館)
9:30 ~ 16:30

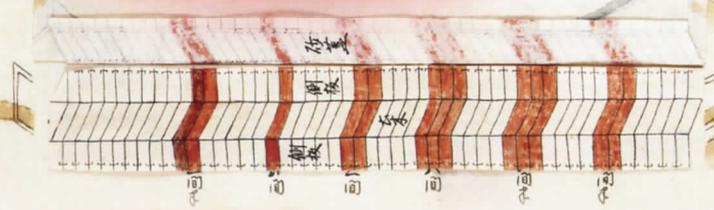
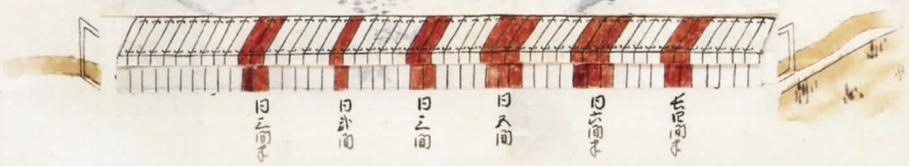
2016年

3月26日(土) ▶ 6月12日(日)

横穴特別公開

5月21日(土) 10:00 ~ 15:00

JR 大和路線
高井田駅から徒歩約5分
近鉄大阪線
河内国分駅から徒歩約15分



江戸時代の国分村

江戸時代に^{こくぶんら}国分村という村がありました。現在の柏原市国分本町、国分市場、^{ひがんじょうちょう}国分東条町、田辺、^{かわちのくにあすかべぐんこくぶんら}国分西、そして旭ヶ丘の一部に広がる大きな村でした。江戸時代には、河内国安宿部郡国分村とい^{ひがんじょう ろっけん}い、国分本町、国分市場付近に村の中心があり、離れて東条、六軒、田辺にも人々が住んでいました。江戸時代には 3,000 人前後の人々が住む周辺でもっとも大きな村でした。このたび、国分村に関する約 1 万点の古文書の整理が終了したため、それらの古文書からわかる江戸時代の国分村について、みなさんに紹介したいと思います。

国分村は、北に大和川が流れ、東・南は大和国と接し、水運と各方面にのびる街道によって、交通の要衝となっていました。剣先船仲間の国分船は、大坂から亀の瀬まで運行していました。そして、村の中を通る奈良街道に沿って新町が開かれ、農村でありながら経済活動も活発でした。ところが、芝山のところで湾曲する大和川は、しばしば国分村の東方に洪水の被害をもたらしました。そのため、^{たのわひ}堤防を築き、溜まった水を排水するために田輪樋を掘り、水田を開きました。田輪樋や治水に関する史料も残されています。

また、文化・教育においても先進的な地で、^{らいさんよう}頼山陽に学んだ^{つげじょうき}柘植常熙（^{かつじょう}葛城）が中心となって、天保 12 年（1841）に私塾・立教館が創立されました。ここでは、国分村だけでなく、周辺の村々からも多数の子どもたちが学んでいました。これが、現在の柏原市立国分小学校の始まりです。

祭りのときに暴れる若者たちについての記録もあります。そして、慶応 2 年（1866）には米価の高騰に不満をもった村人たちが村の米屋を襲い、河内最後といわれる一揆が occurred しました。

治水、教育、そして一揆まで。美しい絵図や古文書が、わたしたちに何かを語りかけてくれると思います。



今に残る奈良街道

—主な展示資料—

村絵図、宗門人別改帳、年貢割附状、年貢皆済目録、小入用帳、検地帳、田輪樋史料、治水関連絵図、立教館関連史料、祭り・一揆などの記録、幕末上納金の記録、国分村ジオラマ、田輪樋模型、立教館模型ほか（いずれも市民からの寄贈・寄託史料）